

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol. 38

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

「平成26年度岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム」を開催しました

1月31日、「平成26年度岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム」を岩手大学工学部復興祈念銀河ホールにて開催しました。前日からの積雪にもかかわらず120名を超える方にご参加いただきました。

1部は三陸復興推進機構の6部門（教育支援部門、生活支援部門、水産業復興推進部門、ものづくり産業復興推進部門、農林畜産業復興推進部門、地域防災教育研究部門）の平成26年度の活動を振り返りました。

2部では「震災復興・地域創生と大学の役割」をテーマにパネルディスカッションを行い、八代仁岩手大学副学長をモデレータに、野田武則岩手県沿岸市町村復興期成同盟会会長（釜石市長）、中村一郎岩手県復興局長、鈴木修岩手経済同友会専務理事・事務局長、平賀圭子特定非営利活動法人参画プランニング・いわて理事長、遠藤隆株式会社テレビ岩手編成局長、廣田純一三陸復興推進機構生活支援部門長（農学部教授）をパネリストに議論を進めました。

三陸沿岸の復興状況や解決すべき課題について意見交換を行い、

①ハード面の復旧・復興後の地域づくり、②地域振興から取り残された方々への目配り、③復興のための人材確保と人材育成、④風化防止と記録・教訓を残すこと⑤復興のための財源確保について、課題が見えてきました。

そのうえで、震災復興・地域創生のために本学の果たすべき役割や本学への期待について各パネリストよりコメントを頂きました。パネルディスカッションでは、大学が持つ知識の他に、復興を推進していく上で大学の財産でもある学生たちを活かしていくことが大きなウエイトを占めることが再認識されました。

他に、工学部共用教育研究棟では、各部門、釜石サテライト、各エクステンションセンターの活動パネルと共に成果品や支援品の展示を行いました。

皆様から頂いた様々なご意見・ご提案に耳を傾け、今後も地域に寄り添った活動、そして将来を見据えた活動を進めてまいります。



中村 岩手県復興局長

震災復旧・復興と地域創生の方向性は同じだと思うので、内陸部も含めて岩手全体の創生について専門的な知見で協力してほしい。

また、国際リニアコライダーについても専門的な立場等で支援いただきたい。



野田 釜石市長

大学で行っている復興の取り組みを継続してほしい。

三陸が抱える問題の解決策を生み出していただけるとは、日本全体はもとより世界に発信できるものであり、大学の発展にも大きく寄与するものだと思う。



鈴木 岩手経済同友会
専務理事・事務局長

三陸水産研究センターで目指している水産業に今までの「K（勘）・K（経験）・D（度胸）」に岩手大学が有する「S」（科学的知見（サイエンス））を融合する「KKDS」モデルの路線をきっちりとし、三陸の地で技術革新を進めていただきたい。



遠藤 テレビ岩手
編成局長

被災地に行ったことがある学生は、震災復興について肌で感じており、講義の中でも生き生きとした発言をしている。

COC事業*が学生たちにとって大きな教育的効果があることをもっと意識して展開していただきたい。



平賀 参画プランニング・
いわて理事長

阪神淡路大震災を経験された方の記録で我々が学んだように、大学としてきちっと分析した震災の記録を残してほしい。

女性が岩手で生活しやすいという情報発信を工夫してほしい。



廣田 岩手大学
農学部教授

教員の専門的知識を生かして復興に関わっていくことは地元の大学として当然。学生が被災地に行くことは、地域だけでなく教育にも非常に価値があり、色々な地域に自ら入っていくような学生を育てることが重要ではないか。

*本学は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に採択され、被災地での学修を全学必修化する等、共通教育及び各学部の専門教育の中に地域に関する学修を体系的に配置して、いわて協創人材の育成及び人材の地元定着を促すことを目標としています。



活動報告の様子



パネル展示の様子



水中ロボットについて担当教員と学生が説明中

釜石サテライトだより

一年で最も寒さが厳しい季節ですが、釜石は海からの暖かい風のおかげで盛岡と比べれば雪も少なく穏やかな気候です。
最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●新しい水槽

釜石サテライト玄関に新たに水槽が設置されました。現在は水と砂だけが入られており、水質が安定するのを待っています。水質が安定した後は日本の川に生息する淡水魚が飼育される予定です。



新しく設置された水槽

淡水魚は暑さに弱いものが多いそうですが、サテライトの玄関はいつも涼しいので淡水魚たちも快適に過ごせると思います。

●新しい花壇

陸前高田市の「森ノ前花壇」が、嵩上げ工事に伴い取り壊されることとなりました。嵩上げ工事が終わり、また花壇が作れるようになるまでの間、土と花の一部を釜石サテライトでお預かりすることになりました。

お預かりした土と花を使い、釜石サテライト正門脇に新たな花壇を整備しました。土を運び入れたり、花を植えたりする作業はとても大変でしたが、森ノ前住民の皆様と岩手大学の学生の協力のおかげで作業を終わらせることができました。

岩手大学地域コミュニティ再建支援班では、これまで復興支援活動の一環として「森ノ前花壇」の整備作業のお手伝いをさせてもらっていました。

まだいつになるかわかりませんが、陸前高田市の嵩上げ工事が終わり、花壇が作れるようになるまでお花たちを維持できればと思っています。



現在は冬なので枯れていますが春にはまた綺麗な花をつけるはずですよ

●サテライト周辺の鹿たち

以前から釜石サテライト周辺は鹿が多い地域なのですが、ここ最近、さらに増えたように思います。夜の10時以降にサテライトの庭を見渡すと必ずと言って良いほど鹿を見ることができます。しかも1頭や2頭ではなく、多い時には10頭近くの群れでサテライト構内の枯草を啄んでいます。

枯れ草や雑草を食べてくれる分にはありがたいのですが、花壇に植えられた草花まで食い荒らされてしまうことがあるので、対策を考えないとはいけません。



なぜか土嚢袋のようなものを角に引っ掛けた鹿が現れました。土嚢袋は復興工事の現場でよく使われている物品なので、この鹿も被災地ならではの存在なのかもしれません

震災から4年を迎える今年、ものづくり産業復興推進部門では、地元のものづくり企業がこれまでの知識や経験を生かし、さらに力強く、そして特色ある企業として歩むための支援を続けてまいります。

連絡先 釜石サテライト

〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1
TEL:0193-55-5691(代表) / FAX:0193-36-1610
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:<http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>



Information

平成26年度SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業報告会

岩手大学、東京海洋大学、北里大学は、従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化や三陸水産品のブランド化を目指し、「SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業」に取り組んでいます。

これまで3大学が取り組んできた研究成果について報告会を開催します。

開催日：3月21日(土) 13:00~16:35

会場：岩手大学工学部復興祈念銀河ホール
工学部共用教育研究棟(ポスターセッション会場)

対象：研究者、水産業関係者、一般市民(入場無料)

主催：岩手大学、東京海洋大学、北里大学

プログラム

- 挨拶
- 事業の概要説明
- 各班成果報告
 - ・水圏環境調査班
 - ・水産・養殖班
 - ・水産新素材・加工技術・加工設備開発班
 - ・マーケティング戦略班
- ポスターセッション及び休憩
- 各ワーキンググループ成果報告
 - ・サケ連携ワーキンググループ
 - ・ワカメ連携ワーキンググループ
 - ・陸上養殖連携ワーキンググループ
- 質疑応答・全体総括

問い合わせ：岩手大学三陸復興推進課(電話：019-621-6629)

★詳細は、岩手大学ホームページイベント情報
(<http://www.iwate-u.ac.jp/>) でお知らせする予定です。